



迷ひなき万緑を見よロダン像

渡部美香

ロダン像は「考える人」ですね。悩んでいるのだらうと、激励する句になった。くよくよしなさんな、万緑の力強い緑の覇気を見てごらんなさいと。



壺焼きの蓋を死守する馬鹿力

田村米生

蓋が取れないのは貝が抵抗しているからとは知らなんだ。「蓋を死守する」と褒めておいて「馬鹿力」で呆れてみせ、裏切り構成になっている。



バーコード外し退院山笑ふ

白井道義

コロナ禍の入院の無味乾燥が、バーコードに象徴されている。今の時代をうまく詠みこみ、「山笑ふ」に退院の解放感や安堵感が凝縮されている。



いななきはファンファーレなり春の駒

日根野聖子

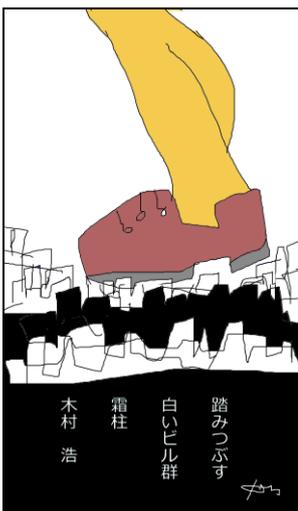
いななきは馬の言語であり歌声である。馬は春到来の喜びを伝えているのだ。ファンファーレなりと言い切った思い切りの良さに滑稽味がでた。



風止めばはらぺこになり鯉幟

森岡香代子

とても素直な擬人化の句である。擬人化は対象になりきってこそできるものだが、この句の場合は、作者自身も空腹だったのかもしれないね。



踏みつぶす白いビル群霜柱

木村 浩

「踏みつぶす白いビル群」で、何事だろうと驚かせておいて、「霜柱」で種明かし。破壊欲求が満たされる快感と、ものを壊す罪悪感もちょっぴり。